

会 議 報 告

区 分	内 容
会 議 名	令和6年度第3回前橋市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会
日 時	令和6年10月23日（水）16：25～17：25
場 所	前橋市総合福祉会館 第3会議室
出 席 者	<p>【委員】9名 森分科会長、田中職務代理者、内田委員、鳥島委員、塚本委員、木暮委員、横澤委員、中村委員、守山委員</p> <p>【事務局】 猪俣こども未来部長 教育委員会事務局教育支援課幼児教育センター：池田所長 こども施設課：岡田参事、一木補佐、荒井補佐、高橋補佐、石坂副主幹 こども支援課：望月課長、佐藤副参事、小暮副参事 （教育委員会事務局総務課：霜田係長）</p>
欠 席 者	5名 田村委員、香山委員、戸所委員、都丸委員、石川委員
傍 聴 者	なし
議 題 等	<p>○議題</p> <p>（1）第三期前橋市子ども・子育て支援事業計画の策定に係る進捗状況報告</p> <p>（2）第二期前橋市子ども・子育て支援事業計画に係る令和5年度実績報告</p>
結 果	<p>○第三期事業計画策定におけるニーズ調査報告書をもとに前回調査と比較しながら結果について説明した。</p> <p>○第二期事業計画進捗状況として令和5年度実績を報告した。</p> <p>○第三期計画書の素案が出来次第、年内に審議会を開催し審議してもらうこととした。</p>
内 容	<p>1 開会（こども支援課）</p> <p>2 議題（進行：森分科会長） 議題（1）、（2）についてこども施設課から説明を行い、質疑応答を行った。 （1）第三期前橋市子ども・子育て支援事業計画の策定に係る進捗状況報告 ・第2回会議の際に説明したニーズ調査について、障害のあるこどもに配慮した質問内容（表現）への対応を行ったうえで7月に調査を行った。</p>

- ・無作為抽出による計2,600件に調査票を配布し1,452件の回収があった（有効回収率55.8%）
- ・保護者の就労状況において、母親がフルタイムで就労している割合が前回調査よりも8%増加しており、「以前は就労していたが現在は就労していない」（仕事を辞めてしまっている）方の割合が6%減少している。出産を経ても引き続き就労している方が増加していることがわかる。
- ・「平日の教育・保育の利用」に係る項目の「保育関連施設を利用していない理由」について、前回調査では3番目に多かった理由に「利用したいが保育・教育の事業に空きがない」という項目が挙げられていたが、今回調査では同項目が約10%減少していた。今まで課題となっていた保育施設の供給量が解消傾向にあることが伺える。
- ・「地域の子育て支援事業の利用状況」について地域子育て支援拠点事業を利用していない方が多いにも関わらず、利用したい事業として2番目に挙げられている。利用したい方がより利用しやすくなるよう事業展開を計画的に整備するために第三期事業計画にも反映をさせていく必要があると考える。
- ・育児休業の取得について、母親が育児休業を取得した人数は前回調査と比較して約16%増加し、父親の育児休業取得人数は約15%増加した。企業内で育児休業取得が推進されているとみられる。育児休業を取得していない理由も前回調査では育休を取らず退職したという回答が多かったが今回は退職した方の割合は減少していた。
- ・調査全体を通して、前回調査と結果が異なる傾向が見られるものは、事業計画にも反映をさせていきたいと考えている。
- ・第三期事業計画の素案が間もなくできるため、年内にもう一度審議会を開催して議論を行いたいと考えている。また、年明けにはパブリックコメントを実施し3月までには第三期計画を策定する予定。

- (2) 第二期前橋市子ども・子育て支援事業計画に係る令和5年度実績報告
- ・資料の表は、教育・保育施設の利用希望者数に対し総定員数がどのようであったかを表したものである。
 - ・幼稚園・認定こども園（1号及び2号相当3～5歳児）は計画時の利用見込みに対する実績（実際の利用希望者数）は88.1%（充足率）であった。また、実際の利用希望者数に対して確保方策（実際の総定員数）は十分に確保できた状況であった。
 - ・「保育所・認定こども園（2号認定、3～5歳児）」及び「保育所・認定こども園（3号認定、0～2歳児）」も同様に利用希望者数に対し、実績の総定員数内でおさまっている。
 - ・施設全体合計をみても確保実績に対し利用実績は範囲内であった。
 - ・「地域子ども・子育て支援事業の進捗状況」のなかで「病児・病後児保育

	<p>事業」の充足率が著しく低い(21.9%)のは、計画策定時では令和5年から1施設増加を見込んでいたが、実際は施設が増加されずに(現在4施設)事業を実施してきているため充足率が低くなっているものである。</p> <p>(質疑応答)</p> <p>3 閉会(こども支援課)</p>
<p>主な意見、質疑</p>	<p>(森分科会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の実績報告を見ると保育施設を利用したい市内の子ども達が困らない状況であったということがわかった。 <p>今日の資料を基に策定される事業計画素案をみて、また十分な意見交換を行いたいと思う。</p> <p>(内田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査の対象者は在園児を対象としているのか未就園児を対象としているのか。 <p>(こども施設課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育関連施設に入所しているかどうかは関係なく、無作為抽出で調査を行っているので混在していると考える。 <p>(鳥島委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査結果の「教育・保育の利用について」「施設を利用していない理由」の問いに対する回答のうち「利用したいが空きがない」という回答数が前回調査より10%減少したことは良いことだと思った。 <p>(木暮委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査結果の「相談できる人がいるか」という質問に関して、市では相談できる窓口などあるのか。 <p>(こども施設課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センターの窓口だけでなく、身近なところでは地域子育て支援センターなどもあると思うが、調査の結果を見ると通所(園)している保育施設の保育士などにまずは相談してみようという傾向が伺える。相談できる場所はあってもうまく周知されていないと感じるので課題として取り組んでいきたい。 <p>(横澤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査に発達支援施設等を含んでいただいたので、結果として施設を利用している方がいることがわかって良かったと思う。 <p>(中村委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査などを行う際は、発達に障害のあるお子さんを育てているご

家族も対象としていることがはっきりと分かるような文言を使い、そういったご家族が「うちは対象外かもしれない」といった誤解を持たれないようにしたほうが良いと思う。

調査票に記載されている「小学校就学後の～」という文章なども「小学校及び特別支援学校小学部就学後の～」というような表現にすることで、前橋市がそういったこどもたちのことも見ているよというメッセージにも繋がると思う。

(守山委員)

- ・ニーズ調査の「子育ての相談をできる人はいますか」という質問に対し、「いない」と回答した方が前回調査よりも微増しているが、保育施設の立場としてゆっくり相談に乗ってあげられるようにしていきたいと思った。

(田中委員)

- ・事業計画進捗状況を見ると、少しずつ少子化が進んでいるのだなということが実感させられた。また、こどもの人数が減っても手厚い支援が必要になる場合はあると思うので、それらも踏まえながら第三期計画策定に取り組んでいかなければならないと思った。